

## 謹賀新年

旧年中は、格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます  
新型コロナウイルス感染症の終息を願うとともに  
皆様のご健康とご多幸をお祈り申し上げます  
本年も何卒よろしくお祈り申し上げます

職員一同



### 各診療科から新年のご挨拶

循環器内科 主任部長 村岡 裕司

新年明けましておめでとうございます

2019年に端を発する新型コロナウイルス感染症パンデミック。この2年ほどの期間は我々にとって、とてつもなく長い期間に感じられます。当科も少なからず影響を受け、一時、診療の制限を余儀なくされ大変ご迷惑をおかけしましたことを、この場をお借りして深くお詫び申し上げます。皆様のご支援のおかげで正常な機能を回復でき、今年もさらなる発展を期しているところです。

#### 1 不整脈領域

アブレーションの治療効果、安全性とも高いレベルで維持できており、最近ではお元気な方であれば80歳代でもアブレーションの適応になることが多くなっています。不整脈の患者さんがおられましたら、まずはご紹介いただければ、患者さん毎に最適な治療を提案しフィードバック致します。

**不整脈専門外来（初診）： 火曜日～金曜日 午前**

#### 2 虚血性心疾患領域

当院は冠動脈CTや、冠動脈の血流予備能評価により、厳密に適応を評価して治療に当たっています。また透視例を含む難治例の治療実績が豊富で、高い治療技術を自負しています。

#### 3 心不全、弁膜症領域

経カテーテル的大動脈弁置換術（TAVI）は治療数、成績とも安定し、今後さらに増加が見込まれます。心臓血管外科やコメディカルとハートチームを形成してカンファレンスを行い、各症例毎に最適な治療手段を検討しています。来るべき「もう一つの」パンデミックである心不全は、今後の最重要課題でもあります。当院では多職種的心不全チームを編成し、最良の治療方針についての議論を行っています。退院後も病診間でシームレスな情報共有ができるよう、さらに努力して参ります。

#### 4 循環器救急診療

当科では、幅広く迅速な循環器の救急対応ができるよう24時間体制で準備しております。手段は問いませんので、ご遠慮なくご一報ください。

**☎ 土谷総合病院 循環器ホットライン 080-1908-6660**

新たな年を迎え、本年が皆様にとって佳き一年でありますようお願い申し上げますと共に、本年も土谷総合病院 循環器内科をよろしくお祈り致します。



如何なる腎不全、臓器不全にも対応するという基本方針の下、①早期腎疾患および保存期腎不全患者の治療、②慢性腎不全患者の血液透析療法の導入とその合併症の治療、③慢性腎不全患者の腹膜透析療法の導入とその合併症の治療、④急性腎不全患者の薬物治療と急性血液浄化療法、⑤透析バスキュラーアクセス治療の5つの柱で治療を展開しております。

これらの治療を行うために、外科医、腎臓内科医が協同して診療に当たっております。



## 1. 早期腎疾患治療

尿異常や血液検査での血清クレチニン値の異常があれば、血液検査、尿検査に加えて、必要に応じて腎生検を行い、その結果と診断に基づいた治療を行います。

## 2. 保存期腎不全（慢性腎臓病：CKD）治療

慢性腎不全は、適切な治療によって、末期腎不全にいたる時期を遅らせることができます。具体的には、原疾患の治療、薬物療法、栄養指導、生活指導を行います。加えて、腎不全による症状に対する治療を行います。

また、腎臓病教室を開催し、患者教育に力を入れています。特に透析予防診療チームの考え方の下、医療連携を積極的に活用しています（図参照）。

## 3. 末期腎不全治療

当院では、血液透析と腹膜透析の両者を行っています。療法選択外来を受けていただき、自分に最も合った治療を選択していただきます。

**血液透析療法：**血液透析は、週3回・1回3～5時間の透析を受けていただきます。医学的条件だけでなく、ライフスタイルや年齢、性格等も考慮し、夜間透析や在宅血液透析も行っております。

**腹膜透析療法：**腹膜透析では、透析液のバック交換を自宅や職場で行います。日中の交換をなくし、夜間就寝中に機械を使って透析液の交換を行うシステムもあり、透析療法と社会生活の両立が可能となります。

## 4. 急性腎障害（AKI）治療

薬物療法や点滴治療を行い、腎機能を回復させます。これらの治療で改善が見込めない場合や重篤な状態の場合には、集中治療室（ICU）で持続的血液浄化療法を行います。当院は、24時間治療可能な体制となっています。

## 5. 透析バスキュラーアクセス治療

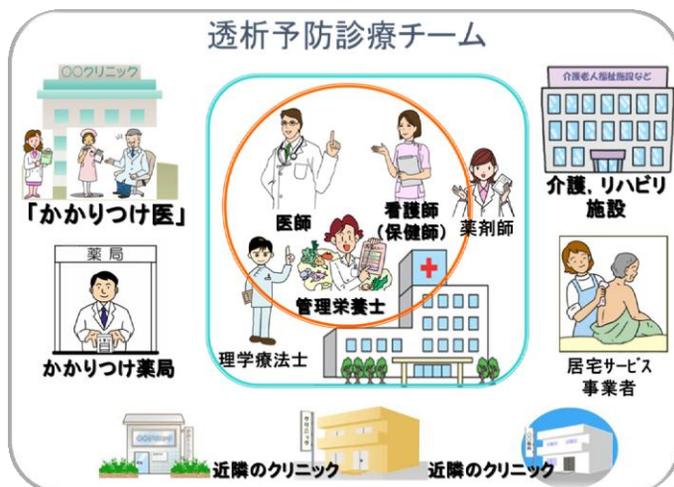
血液透析では、バスキュラーアクセスが必要になります。当院では、バスキュラーアクセスの造設および合併症に対する手術、経皮的シャント血管拡張術（シャントPTA）を行っており、薬剤溶出バルーンやステントグラフト等の新規デバイスも積極的に導入しております。

## 6. 下肢末梢血管疾患治療

放射線科、血管外科、皮膚科と連携し、積極的に透析患者の下肢末梢血管疾患（下肢閉塞性動脈硬化症）の治療（経皮的四肢血管拡張術等）を行っています。

## 7. 連携医療

土谷総合病院では、上記のCKD、AKI治療に対する入院加療を主に行い、透析患者の安定後の外来維持透析療法は、中島土谷クリニックもしくは大町土谷クリニックで行っています。また、長期療養が必要な方は、阿品土谷病院で入院加療させていただきます。



新年に向けスタッフ紹介を兼ね、ご挨拶申し上げます。

昨年手術件数は概ね例年通り、年間約400件で甲状腺手術は約200例、上部および下部の消化器疾患や胆石・ヘルニア・痔疾患等が約200例です。

循環器疾患や腎機能低下症例の周術期管理に慣れており、急性期の胆嚢炎や虫垂炎・イレウスなどの緊急手術にも対応しておりますので、迷わずご連絡下さい。

### 主任部長：杉野圭三

2021年10月より外科ホームページにトピックスや随想を毎週追加・更新しています。(⇒)

(本音では結構しんどいです！)

甲状腺手術では気管、食道、反回神経、頸動静脈等の重要臓器温存や再建を心がけ、根治性を追求するだけでなく患者QOLを重視した手術を行い、前年より常に医療技術を向上させることが目標です。

100歳を超えても現役であった平櫛田中（彫刻家）は「60、70は湊垂れ小僧、男盛りは100から100から」との言葉を残しています。小生もまだまだ湊垂れ小僧です。



### 部長：西原雅浩

当外科で、胃や大腸の消化器がんや胆石・ヘルニア・肛門疾患などを担当しております。

また、進行再発消化器がんの外来薬物療法も行なっています。

さらに急患手術の対応にも可能な限り対応いたしますので、お困りの時はご連絡ください。

### 医長：川崎由香里

主に甲状腺腫瘍の診療に携わっています。近年は微小甲状腺癌への積極的経過観察も認容されてきてはいますが、やはり患者さんご本人も、診ている私たちも不安があるものです。

正確な診断と適切な治療介入ができるよう日々勉強を重ねています。

引き続きご指導よろしくお願い申し上げます。



### 医長：山口恵美

甲状腺疾患、消化器疾患をはじめ、なんでも担当させていただいていますが、疾患の特徴に合わせた診療を日々勉強させていただいております。

よろしくお願いいたします。



## 呼吸器内科

## 医長 餘家 浩樹

新年あけましておめでとうございます。

当科は呼吸器感染症、気管支喘息、COPD、肺癌、間質性肺炎、睡眠時無呼吸症候群など扱う疾患は非常に幅広く、病因も多岐にわたるため非常に知識や経験を要する領域です。

当院では特に循環器系疾患や腎疾患を合併症として有する患者さんが多く、投薬のみでコントロールできるような軽症例から在宅酸素や在宅NPPVを必要とする症例まで多数の患者さんを診療させていただいております。

呼吸器感染症例も外来では急性上気道炎などの軽症例から、入院では重症肺炎や免疫抑制剤内服等に起因する日和見感染症例等まで診断治療しております。総合病院における呼吸器内科として、他科との連携をしながら地域の医療に貢献できますよう頑張っていきます。

当科では現在呼吸器内科医一人体制で診療を行っておりますので、画像診断で肺癌が疑われ、気管支鏡、肺生検が必要な場合には、近隣の呼吸器内科・外科診療が可能な施設へ紹介をさせていただきます。昨年も多数の症例を受けていただき、とても感謝しております。この場を借りて御礼申し上げます。

今後ともよろしくお願い申し上げます。



新年、明けましておめでとうございます。

一昨年からのコロナ禍は、昨年末にはやや下火になったような気配がありましたが、まだまだ先が見通せない状況が続いております。先生方も何かと心労が絶えない日々を過ごされているものと推察いたします。一日も早く、以前のような日常が戻ってくれることを願って止みません。

当科の昨年の状況は、県外からの移動制限などコロナ禍の影響もあってか手術件数が減少した時期もありましたが、先生方のご支援のお陰をもちまして最終的には300件以上の手術をおこなうことができました。篤く御礼申し上げます。

心臓血管外科で扱う疾患には大きく分けて、①弁膜疾患、②虚血性心疾患、③大血管疾患（胸部・腹部）、④先天性心疾患、⑤末梢血管疾患が挙げられ、私たちはこの全てに対応しております。

これらのうち弁膜疾患については、MICS（Minimal invasive cardiac surgery；低侵襲心臓手術）の経験がかなり蓄積してまいりました。小切開による弁膜症などの手術で、患者さんの肉体的・精神的負担を軽くし、より早期の退院と社会復帰を可能とします。これまでは症例を選んで限定的に行ってききましたが、今年はさらに適応を拡大してより積極的に取り組みたいと考えております。

先天性心疾患については、出生数の減少に伴って全国的にも手術件数は減少傾向のようですが、県内で手術を行っている2施設のうちの数少ないひとつとして、ASDやVSDに対するMICSも含め、より質の高い手術を目指して今年も取り組んでまいります。

人口の高齢化に伴い、動脈硬化などによる下肢虚血の患者さんの増加が予想されます。これまでも皮膚科・放射線科と連携しながらフットケアに取り組んできましたが、今年はさらに充実させていきたいと考えております。先生方も下肢虚血の患者さんについてお困りのことも多々あると思いますが、是非とも私たちにお手伝いさせてください。

平日の通常診療時間は勿論、夜間や休日にも常に心臓血管外科医が院内に待機して、急患にも常に迅速に対応できる体制をとっております。今年も昨年に増してご支援ご指導をいただきますよう、よろしくお願い申し上げます。



前列左から 古川、山田  
後列左から 大窪、山根、望月(慎)、徳本

整形外科

部長 蜂須賀 裕己

明けましておめでとうございます。

いつも貴重な症例をご紹介下さる各病院、クリニックの先生方には厚く御礼申し上げます。昨年11月より整形外科部長は木森より蜂須賀に交代しました。木森前部長は引き続き広島手の外科・微小外科研究所の所長としてお力添え下さいます。

当科で継承して参りました手外科・肘関節外科に関しましては、世界レベルの手外科・微小外科手術を患者さんに提供し、地域医療に貢献させて頂きたく存じます。

これまでと同じく上肢の外傷、スポーツ障害、神経障害、関節リウマチ、先天性疾患、加齢性変性疾患の治療に加え、微小外科の技術を駆使した四肢の造形手術、難治性偽関節手術、機能再建手術も行いますので、何卒ご紹介のほどよろしくお願い致します。

また一方で、外来診療体制を変更致しました。手の重度外傷の救急・緊急手術や、心臓・腎疾患既往のある整形外科外傷、整形外科手術後のリハビリテーション入院の患者さんを積極的に受け入れる様にしています。

すでに切断指再接着や神経損傷、下肢広範囲組織欠損、心不全のある大腿骨骨折症例など多くの患者さんをご紹介いただいております。誠に感謝しています。スタッフの関係上、現在のところ平日日中を中心としており、夜間・休日の治療は今後の課題ではありますが、ご相談いただければ可能な限り対応させていただきます。本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。



左から 蜂須賀、木森、宗盛

新年あけましておめでとうございます。

平素より多くの患者様をご紹介頂き、誠にありがとうございます。

当科は小児循環器診療と新生児診療を専門にしており、日本小児循環器学会専門医制度修練施設、胎児心臓超音波検査専門施設、日本周産期・新生児医学会専門医制度指定研修施設、地域周産期母子医療センターとして、「愛のある医療」をモットーに診療に当たっています。

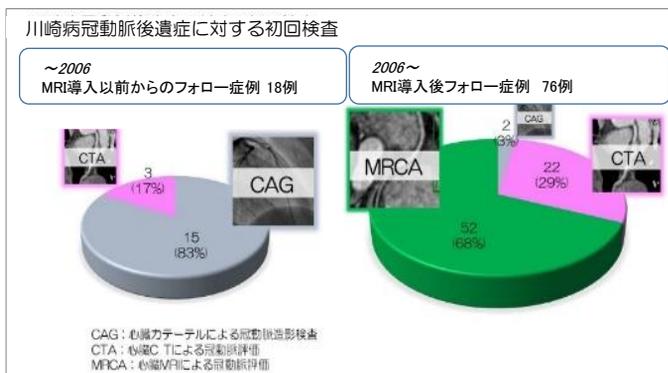
近年、医療被ばくが注目されており、放射線感受性が高く、成人と比べ余命の長い小児には、可能な限り放射線被ばくを避ける必要があります。心臓MRIはCTとは違い、放射線被ばくはなく、形態評価、心機能、血流、心筋の組織学的評価などが可能であるため、近年、その役割が大きくなっています。

当院では2006年以降、特に川崎病冠動脈病変に対する心臓MRIを積極的に行っており、2021年までに約100例、300回以上の実績があり、全国でも有数の検査数を行っています（図参照）。心房中隔欠損症などの先天性心疾患に対して、位相差コントラスト法という撮像方法を使用して非侵襲的に治療適応を評価することが可能になり、術前のカテーテル検査入院も省略できるようになりました。その他、新たな血流評価方法である4Dフローでは血流を視覚的に評価でき、フォンタン術後や、大動脈縮窄症術後の血流評価などを行っています。このように、当院では積極的に心臓MRIによる評価を行うことで、患者に優しく、より質の高い治療が行えるよう努めています。

また、心臓病の出生前診断（胎児心エコー）にも力を入れており、心臓病を出生前診断した場合には、胎児期から両親にその病態や治療方針について説明を行い、産科と小児科が連携して出生前管理を行い、必要であれば分娩にも小児科医が立ち合い、出生直後から迅速な治療を開始します。胎児診断に基づく医療は、単に胎児診断を行うだけではなく、より最善の医療を受けて頂くことを提案する医療だと考えています。

胎児期を含め、心臓病を疑ったら、まずは当院へ相談して頂ければ幸いです。

今年も宜しくお願い申し上げます。



## 消化器内科

## 部長 荒滝 桂子

1年前、「新型コロナウイルス感染不安によるがん検診の受診控えが懸念されています」とお伝えしました。

2021年11月、2020年院内がん登録全国集計の結果が発表されました。やはり、前年度と比較すると、登録数が60,409件減少（平均4.6%減）。がん診療連携拠点病院等では平均5.3%の減少を認めたそうです。

2019年にがんで死亡した人は376,425人、部位別では多い順に肺、大腸、胃、膵臓、肝臓でした。

2～5位は消化器です。

2021年のがん統計予測でもこの順位に変更はありませんでした。

（情報：国立がん研究センターがん情報サービス）



**\* 喫煙と飲酒はすべての消化器がんのリスク**  
**\* 肥満は、大腸・肝臓・膵臓のがんの共通リスク**  
**\* 糖尿病があると……**





**肝がんリスク1.97倍、膵がんリスク1.85倍、大腸がんリスク1.4倍**  
（糖尿病とがんに関する委員会報告）

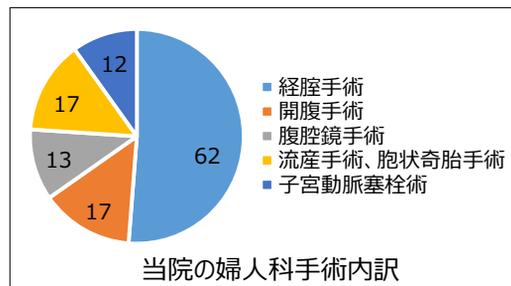
リスクを持つ方には、どうぞ「便潜血検査」「内視鏡検査」「腹部超音波検査」を施行してください。

自施設で不可能な場合は、当院地域医療連携室にご相談下さい。

消化器内科スタッフ一同、スタンバイしております。

本年もよろしく願い申し上げます。

あけましておめでとうございます。  
 平素よりご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。  
 2021年当院の分娩数は345例でした。母体搬送も34例でどちらも昨年を下回ることはなく、これも皆様のおかげと心より感謝しております。  
 COVID-19の感染者が増加傾向にあり、ご迷惑をおかけすることもあるかと思いますが、今後もお断りすることがないよう努力してまいりますので、どうぞよろしくお祈り申し上げます。  
 婦人科分野の手術は121例でした。  
 おかげさまで2020年に比べ、子宮動脈塞栓術の症例が増加しました。  
 (2020年6例、2021年12例)



子宮頸部巨大筋腫の1例をご紹介します。  
 約10cmの頸部筋腫があり、術前のMRIでは子宮体部は頸部筋腫のため膈左下まで上方に位置しておりました。  
 子宮動脈塞栓術を行ったところ、2週間後から帯下増量し、4週後には組織排出あり。3ヶ月後のMRIで筋腫は3cmに縮小しており子宮体部は正常の位置に復しておりました。  
 頸部筋腫の手術は通常の体部の筋腫よりは困難と考えますが、子宮動脈塞栓術ではこのように筋腫が排出するので、有効な治療と考えます。



それ以外にも過多月経、月経困難症などの症例がありましたら是非ご紹介をよろしくお祈り申し上げます。  
 今年が皆様にとってよい年でありますようお祈り申し上げます。

## 地域医療連携室よりお知らせ

### ◆外来診療変更について

昨年11月より、整形外科の外来診療体制が一部変更しております。  
 受付時間が曜日によって異なりますので、ご注意ください。

〔受付時間〕 火・水 8:30～11:00 月・木・金 8:30～10:30

〔診察時間〕 9:00～

		月	火	水	木	金
午前	新患	宗盛 優	宗盛 優	蜂須賀 裕己	木森 研治 (上肢)	蜂須賀 裕己
	再診		蜂須賀 裕己	宗盛 優		宗盛 優

### ◆面会制限に関して

新型コロナウイルスの流行に伴い、**面会は原則禁止**とさせていただきます。  
 ただし、入・退院時の送迎や医師が必要と認めた場合（症状が重篤な場合など）は、短時間での面会を許可させていただきます。入院患者様への預かり物を持参された方は、1階『総合案内』前の内線電話で入院病棟に電話していただきますと、病棟看護師が受け取りにまいります。

対応できる時間：月～土曜日（8：30～17：30）

ご理解・ご協力のほどよろしくお願いいたします。